

「不要品」を
活かす

事例

24

大学

廃校となった大学の残置物撤去・回収

校舎内、学生会館、職員宿舎、学生寮、倉庫などに残された家具・什器・設備類を全て撤去



大型の什器や備品は専用車両で破壊圧縮
作業期間 1 ヶ月、200t 以上の搬出に

解決

古いキャンパスだったため、移転先で使用する家具や什器・備品は少なかった。そのため数多くの廃棄物がそのまま残置物となっていた。廃校の廃棄品管理側の管理負担軽減と費用軽減となるよう下記を提案。

1. 三段階評価査定による費用軽減

- トリース買取
- トリサイクル買取
- ト廃棄処分

2. 一業者のみで家具・什器・備品の撤去

- ト各種専用車両での撤去搬出
- ト作業員 20 名体制で 1 ヶ月完工

机、椅子など木屑・混合廃棄物をパッカー車で破碎し搬出。バツカンで積荷されたモノはアームロール車で搬出。大型の備品類は移動式クレーン搭載のユニック車で 3 階建て校舎から荷卸し。荷卸ししたモノをユンボクラッシャーで圧縮解体後、フォークリフトを使用し 2t トラック、4t トラックで搬出。

その他、音楽室にあるピアノや研究室にある顕微鏡などの備品類、食堂の食器類、各部屋のカーテン類や修繕用のタイル等全て撤去搬出。1 社で廃棄まで行うことにより作業と費用の大幅軽減となった。

検討課題

複数のキャンパスを持つ大学が、地方のキャンパスを都心に移転するため、廃校とした。

移転先のキャンパスは都心に相応しいコンセプトで新しく作るため、廃校となったキャンパスには相当量の家具や什器、建物付帯設備などが残った。量と種類が多い為、複数の業者管理と廃棄費用に悩んでいた。

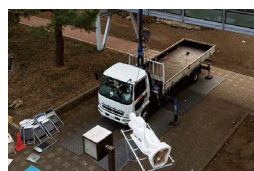
ユンボクラッシャーで
廃棄物を圧縮解体



音楽教室の
ピアノも撤去



渡り通路から
地上に荷卸し



荷卸しは
ユニック車

POINT

1. 三段階評価査定
2. 一社で廃棄まで
3. 専用車両
4. コスト削減